特定非営利活動法人
平成21年 秋号 NO.40

http://nepal-mika.jp
saito@westeast.co.jp

ネパール・ミカの会

平成21年10月17日発行　194-0035東京都町田市忠生2-5-36 tel:042-791-0602

会報によせて

理事長　齋藤　謹也

久しぶりに、保育園の事務室に置いてあった「新明解国語辞典、第4版（三省堂）」を開いてみました。
一時大分話題となった「新明解」さんであるが、そこの第一頁の序（辞書に求められるもの）に次の語句がありました。

この辞書は、関係者一同の試行錯誤の結果成ったものである。

朝起きて朝食の膳に新聞を見る。夜の帳の下りる頃は夕刊を手にする。その都度毎にわれわれは現代社会の進む方向と思潮を各自のアンテナで捉えようと試みる。媒体は言葉である。本を読む、手紙を書く、事務を執る、連絡を受ける、命令を伝える。旧友と久しぶりに会う、会話を楽しむ。テレビを見る。社会生活において欠くべからざるものは言葉である。生活は言葉によって支えられ、われわれの思考と内省は言語によって深まる。　　（中略）

書き入れの精粗は、使用言語への内省の深浅を、そのまま反映する。個人差は頗る大きい。改めて新明解の言葉に対する厳格な意欲を思いますね。

さて、私たちのボランティア活動も十数年を経て、言葉の理解の深浅も相当な差があり、個人差も頗る大きいことはいうまでもない。情報の把握量の差も大きくなっています。しかしながら、その差を常に全員が初心に戻り、清新な気持ちで受け取り立ち向かうことが、唯一の道であるように思われます。わが視野狭きことを思い、独善におちいらぬよう自戒し、百尺竿頭一歩を進めて、発想の転換をしつつ、点と線を結びながらネパール情勢の変化の中で試行錯誤を繰り返しながらも歩みを進めたいと思います。

もう一度私たちがなにげなく使用している言葉や理解が共通のものとなりえているのかを検証しながら、それぞれがもっている体験をも話し合い近づくようにお互いを触発し、ネパールの子どもたちや人々への協力をすることの喜びを確認し、幾度も発奮し自分の心を脱皮し続けていけるようにしたいものですね。

【いつもと違う雰囲気での例会】

移動例会と懇親会

和田泰子

毎年、7月と12月は町田駅周辺での移動例会と懇親会を計画しています。7月 18日は市民フォーラムでの例会とネパールレストランでの懇親会を予定していましたが、レストランの都合で急遽簗田寺での開催になりました。

その日は1時からこもれび堂物置の整理、3時から例会、5 時から暑気払いということになりました。物置の中はいつもバザー用品で満杯。簗田寺のご好意で外の物置がお借りできることになり、ネパール支援の旅関係の品物（四つ葉会布袋、鉛筆、テニスボール等）をそちらに移しました。例会の後、会費500円を集め、軽食、ビール等を買出しに。Iさんは高級ウイスキーとおつまみを、またバザーの度に、おにぎりや美味しいおやつを作ってきて下さるYさんはカボチャのサラダを、バザーの後まで会計等の締めで頑張ってくれるMさんは珍しい生姜のケーキを持参しての参加。そして思いがけないことに、ボウリング大会の時にいつも手作りパウンドケーキを届けてくださっていたFさんから、山盛りのトリ料理他沢山の差し入れがありました。ご本人は忙しくて懇親会には参加できないのに、買い出しまで手伝って下さいました。また、いつもお手伝いできなくて‥と会員のEさんは故郷のお菓子を沢山届けておいて下さいました。

暑い日の上、一仕事した後だったので、冷たいビールと差し入れのお料理がおいしかったこと！

簗田寺の本堂で、ゆったりと心地良い時間を過すことが出来ました。たまにこういう会もいいね、と言い合いながら、Eさんからのお菓子を手土産に解散となりました。沢山の仲間に支えられたミカの会であることを、実感した一日でした。18 名の参加でしたが、次の機会にはもっと大勢で楽しみましょう。

横浜国際フェスタ2009

加藤雅子

9 月5日･6日は両日共晴天に恵まれ、会場のパシフィコ横浜では「海のエジプト展」も行われており、来場者数は例年よりも多く感じました。
NGO･NPO ツアーで訪れる人にミカの会の活動内容を説明したり（これがなかなか難しく自分がいかにミカの会の事を理解していないか知らされました）、体験ボランティアの子供との交流では心いやされ、いつものバザーではできない充実した「横浜フェスタ」でした。

遠くまで荷物の搬入等
ありがとうございました！

「ザ･フェスタ栄通り」

松浦陽子

今年は初の試みとして、「エコ！」をテーマにイベント後の大量ゴミ減量に取り組みました。会場に分別ステーションを 2 箇所設けてリュース食器、リサイクル容器などを回収しました。

ミカの会は焼そばのリサイクル容器を去年の売上げと見比べて少し多目の 250 個を 1 個 8 円（2,000 円）で買い取りました。残っても来年のさくら祭りで使えますので･･･。リサイクル容器は回収後フィルムを外し燃やせるゴミに、紙容器は資源ゴミに分けられます。今年はまだ第1回なのでリュース箸までは行き届かず割り箸使用が認められましたが、次回からは順次リュース式に変って行くものと思います。

当日はお天気に恵まれましたが残暑の厳しい日になりました。1 週間もかけて大きな氷を作ってくれた Y さんのおかげでラムネやお茶、ウーロン茶は良く冷えて大人気で、又客あしらいの上手な S さんの力もあって早目に売り切れてしまいましたが、主力の焼そばが思いの外苦戦してしまいました。

ミカの会のテントは奥から 2 番目だったので入り口に近い位置の競争相手に大分お客を取られ、又すぐ隣りでも焼そばを売っていたので益々不利な状況が重なり、当初は「あぁ…今日はダメかも！」と気落ちして暗澹たる思いにかられたりもしましたが、午後、市長を乗せたオープンカーや警視庁騎馬隊などの華やかなパレードが終わって、今度は会場内のイベントを見物しようという客がどんどん入って来て賑やかになり、焼そばも徐々に売れ出しました。

ちょっといつもの元気がない I 事業部長に代わって O さんが焼き手で頑張ってくれましたが、午後、横浜国際交流フェスに参加の為いなくなってからは、W さんと N さんが女性陣焼き手で活躍してくれました。又ハッシュドポテトも N さんが中心で焼いてくれて、140 個完売しました。

テントの位置は当初、ミカの会は右側の一番奥と決められていたので「リサイクル品も並べ易い！」と喜んでいたのですが、当日会場に行ってみると奥から 2 番目に変っていて、何故？とびっくりしました。仕方がないのでいつものリサイクル品販売のメンバーさん達が、狭い場所を工夫しながら何とか売り場を作って頑張ってくれました。

結果的に焼そばは予定数を割ってしまいましたが、民芸品も思いの外善戦したし総合的にはまずまずの売上げだったと思います。

いつも感じることですが、バザーやイベントの時は搬入、搬出、食材の買出し、具材の下ごしらえ、そして当日の販売要員とが連携してはじめて出来る事だと思います。皆の力です。協力して下さった皆様、“お疲れ様でした”

グルワニマイ訪問記 2

七川富美子

お待たせいたしました。グルワニマイ村訪問記、第 2 部です。

ところで皆さん、環境問題が取りざたされる近頃、「ヒマラヤ」を領土に持つ自然豊かなネパールの映像に良くお目にかかるようになったと思いませんか？
そういった番組で写されるのは雪をかぶって神々しく鎮座するヒマラヤの山々、ヒマラヤの厳しくも美しい自然の中で暮らす人々、トレッキングルートやその街道と街道をつなぐ村で素朴で昔ながらの営みを続けるネパールの人々だったりする。時にはカトマンズ近郊の寺院や田園風景も紹介される。そういった映像は人々にネパールの事を知ってもらう意味ではいいことのように思います。
でも、山だけがネパールじゃない！と声を大にして言いたい！　ルンビニだって、ネパールだ！
ネパール=ヒマラヤという固定したイメージが出来てしまったのは一体いつからなのだろう？
ネパールには、こんな場所もあるんです！こんな暮らしをしている人もいるんです！
今年は、そんな思いを一人でも多くの人に伝えていけたら･･･と思います。

さて、そんな訳で今回はルンビニの生活に欠かせない「家畜」について書こうと思います。

グルワニマイ村でインタビューを受けてくれた 8 家族全て、何らかの家畜を飼育していました。
全ての家族が牛を、いくつかの家族は山羊も飼っていました。

【ここでの生活は家畜に支えられている】

牛には大きく分けて耕作用と搾乳用に分けられる。
家畜用の牛は白かもしくは茶色の牛で、田んぼを耕したりするのが主な仕事だ。

そして搾乳用の牛は黒色（黒に近い灰色）の水牛で、人々の生活を大いに支えている存在と言っていい。
水牛の寿命は約10年、オスの水牛が生まれた場合は少し育てて、食用として市場で売る。約一歳の牛で 2000 ルピー～3000 ルピー程で売れる。そして、メスの水牛が生まれた場合は、家で飼う。
メスの水牛は生まれてから一番初めの子牛を産むまで少なくとも 3 年かかる。つまり、ミルクを取れるまでに3年の歳月と手間がかかる。
子供を身ごもった牛はとても大切なので、外ではなく家の中で大切に育てる。
そのことから分かるのは、家族の生活を支える大切な大切な家族同然の存在だということ。
牛を狙った強盗も時々あるという。
衛生面を考えれば、人と家畜は別々にしたほうがいいのは明らかだが、そう簡単にいかないことは容易に想像できる。

【人は外、牛は家。それほど牛は大切。】

ミルクが出るのは子牛を産んだ後約12ヶ月～16ヶ月ほど。
水牛一頭から 1 日平均約 4 リッターの牛乳がとれる。
いい水牛だと 1 日10リッターほどとれるとのこと。
しかし、牛は育てるのが大変。毎日沢山の草を食べさせなくてはならないからだ。

村の人の庭には車輪と刀と扇風機が組み合わさったような専用草切り機がある。これで取ってきた青い草と藁とを混ぜて牛のエサを作る。
それだけでは充分ではないので、牛を放牧させる必要がある。
しかし、自分の土地を沢山持たない人は公共の土地（多くは道路の両端など）で牛に草を食べさせなくてはならないし、いいミルクを沢山取るには草だけでは栄養不足なので菜種のカス（ピトナ）を食べさせる必要がある。
いい牛というのは、一頭 3 万 5 千ルピーほどするらしい。インドには水牛のバザーもあるとのこと。
水牛から採れた牛乳は家で飲む事もあれば、売ることもある。

この牛乳を市場に持って行けば1リットルあたり約 20 ルピーで買い取ってくれる。グルワニマイ村近くの村の工場でも買い取ってくれるそうだ。
ヨーグルトだと 1 キロ 40 ルピーほどで売れる。
村の人はミルクやヨーグルトを近くの市場に売りに行く為に自転車後輪の両側にアルミ製の壺の様な物を紐でくくりつけ毎朝朝早くに市場に出かける。

【自転車の左右に牛乳を下げて、いざ市場へ！】

そして、忘れてはいけないのがこの牛達から採れる「ふん」です。
この牛の糞と藁を手で混ぜ、手のひらよりも少し大きいぐらいに分け、家の壁にペタペタと貼り付けて乾かします。
どの家の壁にも手のひらの形がくっきりついた牛糞が所狭しとはりついている。
これは煮炊きに必要な貴重な燃料となる。現地の言葉では「チパリ」という。
一回の食事作りには多いときで50個ほどののチパリを使うという。

【壁一面の牛糞。大切な燃料になります】

牛はミルクを売れば定期的な現金が得られるし、病気などで大金が必要になったときは牛を売ればまとまったお金を得ることができる。
牛の糞と藁を混ぜれば立派な燃料になるし、田んぼにまけば肥料にもなる。
牛は人々の生活を支える大切な存在だ。牛の世話をするということは、生活を支える･守るとことなのだ。
ルンビニの子供たちが家畜の世話をしていること。それは決して「いい」「悪い」と二分できることではなく、「生活の一部」「生活に必要」なことだという現実をきちんと受け止めて、その上でミカの会が教育支援という側面から何が出来るのか、現地の声に耳を傾けながら実現させていけたらと思います。

新理事挨拶

七川　富美子

こんにちは。
この度広報担当となりました七川です。
私が入会したのは 2001 年の春、まだ寒さが残る 3 月でした。あの時はこもれび堂にこんなにも通うことになるとは、夢にも思いませんでした。改めて、私とミカの会とを引き合わせてくれた W さん始め、いつも温かく見守ってるミカの会皆さんに感謝します。

ミカの会の理事という大役を引き受けるに当たり、皆さんにお伝えしたい事があります。ミカの会が持つ「3 つの宝物」についてです。
ミカの会は他の会にはない「3 つの宝物」を持っていると思います。一つは「会員」のみなさん。二つ目は「ラマさん」。そして三つ目は、前の二つ無しでは為し得なかった「現地との信頼関係」です。

会の皆さんは個性豊かで、働き者で、パワフルで、優しくて････決して褒めすぎではなく、ミカの会には素敵な方が沢山いると思います。
ラマさんはいつも「大丈夫です」としか言わないけれど、その裏でどんな細かい仕事や現地との大変な交渉をしているのか･･･。政情が不安定な中、ご自身の仕事や生活がある中、会とルンビニのために尽力してくれて、本当に感謝しています。ありがとう。
私がグルワニマイ村の調査させていただけたのも、会に対する「信頼」があったからだと思います。
10 年という月日、歴史を作り上げてきた一人一人、一つ一つがあったからこそだと、改めて思います。

そんな会の一端を担うことに戸惑いもありますが、そこは理事の先輩方、会員の皆さんの知恵とパワーを借りつつ、私なりにこの「3 つの宝物」を大切に育てていけたらと思います･･･。
まだまだ頼りなくて未熟者ではありますが、ゆっくりとじっくりと会に貢献できたらと思いますので、どうぞ温かく見守ってください。
これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

町田大道芸

斎藤孝

今年で 14 回を数える町田大道芸にネパール･ミカの会がバザーで参加したのが 2005 年で、本年は 5 回目の参加となりました。

最初の 3 回は東急 109 脇の空地にテントを張りネパールの民芸品とリサイクル品の販売を行っていましたが、昨年より空地に建物が建築され現在は立ち蕎の「富士そば」となっています。

その為にミカの会の場所がなくなる為、他の場所を探しましたが町田では一番土地の価格が高いところなので空地があること自体おかしいところです。

また再開発が行われた中心地でもあり、歩道にしても公地民地の入り組みが激しくありますが、私のところ前は再開発カラミで歩道は市有地となっていますが野村證券前は民地となっていて、野村證券の協力があり歩道上で可能となりました。

町田ではもっとも地価が高く地価の基準値となっているところで、毎年土地価格が発表になり新聞では写真入りで記事に出るところで通行量も町田では 1･2 番の立地となっています。

【どれも見事なパフォーマンス！】

本年からヤキソバはじめ飲食も可能となりましたが、当初ヤキソバ販売も検討しましたが、近くで食する場所がない為、販売には厳しい環境でしかも容器･ゴミの処理にも問題があるとし従来通りの民芸品とリサイクル品の販売としました。

商店会長はじめ多くの役員は商店主でありチェーン店の店長であり大型店でもあるので商売に関してはプロなのでネパール･ミカの会の販売には常に厳しい見方をしていますが、反省会の席での評価は毎年上がっていて今年は今までで一番良かったと専門家達は評価していました。

【リサイクル品と民芸品販売中！】

町田大道芸は永いことヨコハマ大道芸にお世話になっていて色々と指導をお願いしていますが、一昨年にそこを仕切っている O 女史がネパール･ミカの会に深い関心を持ち最後のエンディングショーで集まった投げ銭をネパールの学校建設資金にと大道芸人に声を掛け昨年今年と 3 年続けて実行され、更に大道芸のクライマックスでネパール･ミカの会の紹介まで行っていただいていることに感謝しています。
O 女史は昨年からネパール･ミカの会にも入会をされています。

ぬかるみ道の中間調査

大谷　安宏

10 月 4 日から機内2泊、カトマンドゥ2泊、ルンビニ2泊のタイトな日程で来年度以降の建設支援候補校の視察に中間調査に出掛けた。スリジャナさんの手馴れた対応ですんなりと空港を抜け、2日前にルンビニから戻ったばかりラマさんがいつもの笑顔で迎えて「今年のルンビニは雨が多く雨期のようです」。政情は「どうなっているのかわからない」と新政権も未だ順調に始動しておらず、相変わらずの電力、水不足は日常生活に大きな障害となっている。

バイラワ空港から 10 分ほどの街脇の小中校をスタートに新規視察校 6 校、既支援校7校を訪ねたが教育制度の改正により中学校、高校併設に向けての動きがあり、校舎建設が不足する傾向に JICA 資金による校舎建設、塀囲いを設けるなど全体に動き始めているように思う。

新規視察校は街道沿いより可なり遠距離にあり、ぬかるんだ泥道に車を置き雨模様の中を 3〜4Km を歩いての訪問校が多く、マヤデビィー校へはパダリヤ集落から歩き始めるなど、メタボ気味の二人には丁度よいとラマさんと笑いあった。

【建設中のティナウ小、完成が待ち遠しい！】

既支援校からは上級校併設の動きにあわせ校舎建設、図書館建設の要望も多くグルワ二マイ図書館の建設が各校に影響を与えている。一方、バイラワで偶然会ったヤナトラハ校の理事長から来春に向けて図書館を建設中で、校舎建設支援が同校の向上改善の契機であり、スポーツフェスタ以降自主的な清掃活動も継続していると言う。各校独自の積極的教育環境向上策を進めること期待したい。また、10 周年記念開催のスポーツフェスタは支援校が一同に会したことを高く評価しされ数年ごとの開催の希望する所が多く、これまで地道に続けた支援活動が多岐にわたって着実な効果を実感する旅であったが改めてこれまでのラマさんのご尽力に感謝と敬意を表したい。

今回一人での中間調査であったことで、ルンビニの 2 泊のラマさんと同室また歩きながら会の運営、現地の課題や個人的話題などたっぷりと話し合う機会は楽しくもあり、教えられる事が多く有意義であった。

【メロメロのラマさんとヤンチェンちゃん】

タメルでドマ夫人、愛娘ヤンチェンちゃんと夕食を共にすることが出来た。伝い歩きを始め、歯も生え、愛くるしくナマステポーズにご夫妻はメロメロ。幸せ一杯のご一家でした。

帰国後の理事会で”ひろしま祈りの石財団”への助成金申請候補校、ミカの会独自の支援校、そして校舎修復支援校を決議された。

建設資材、人件費などの値上がり等教育支援にも多くの課題を抱えていますが、現地でのネパール･ミカの会に寄せる期待は大きく会員皆さんの益々のご支援とご協力を期待します。

事務局便り

今号から会報に事務局だよりのコーナーが出来ました。これからのイベントやお知らせ等を載せてまいります。11 月はイベントが盛り沢山、大勢が少しずつ力を出し合って、楽しく活動していきましょう。

イベント予定

11 月 1 日（日） 夢広場
会場：ぽっぽ町田 10 時〜16 時
ヤキソバ等の食品、ネパール民芸品、リサイクル品をネパール色豊かに販売します。舞台では様々な国の伝統芸能等が繰り広げられます

11 月 14 日（土） 福祉フェア
会場：東京家政学院大学 10 時〜16 時
大学祭でミカの会の活動の様子を写真とパンフ等で紹介します

11 月 22 日 相模原国際フェスティバル
会場：大野北公民館 10 時〜16 時
（淵野辺駅南口徒歩 1 分）
夢広場同様の出店内容です。舞台では演奏等があり、会館の中では様々なジャンルの活動発表や展示が行われます

12 月 19 日（土） 移動例会＆忘年会
移動例会会場：町田市民フォーラム（活動室A）
15 時〜
忘年会会場：徳樹庵（旧ぱるるプラザ 3 階）
（詳細は後日ハガキでお知らせいたします）
17時 30〜

編集後記

今回、初めて会報の編集なるものを担当させていただきました。編集を担当したとはいえ、原稿の下準備等は W さんや S さんが協力してくれたので、私は記事を切り貼りしただけ･･･。なにはともあれ、この会報が無事に皆様の手元に届きますように･･･。
秋は短く、あっという間に年末が近づいてきます。
例会･忘年会で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。 （T･N）